

ゼミナール紹介

担当者名	井上裕之
e-mail アドレス	inoueh@bunkyo.ac.jp
研究室	3401
在室曜日・時限	火曜(2～3 限)、水曜(午後)、金曜(午後)
個別相談など (日時・方法)	●当ゼミを志望する学生は、個別面談を受けてください。面談を受けない学生は選抜対象としません。事前にメールで希望日についてご相談下さい。 ●ゼミ見学希望者は、水曜2限の3年ゼミに来てください。日取りは特に決めていませんので、事前にご連絡ください。
選抜方法	定員を超えた場合は、志望書と面談等で総合的に評価・選抜します。
ゼミナールに関連する科目	私の担当する授業は原則として履修していただきます。
2025 年度担当科目	文章演習Ⅰ・Ⅱ 文献講読 プレゼミナール B キャリア研究 ジャーナリズム論 メディア社会学 ゼミナール 卒業研究
授業概要	●当ゼミナールはジャーナリズムとライティング(文章執筆)のゼミです。「ことばによる情報伝達」を軸に、さまざまなタイプの文章を執筆するワークを行います。「調べる力」と「書く力」はどこにいても必要とされますので、その力を養いましょう。 【3年生のゼミは】 ●新聞記事を読み込み、記事スタイルを学びながら時事問題に強くなってもらいます。 ●茅ヶ崎市の市議会を傍聴して、地域社会について学び、実際に記事を書いてみます。 ●書評、食レポ、インタビュー記事など、自分の好きなジャンルの記事を執筆します。 ●文字形式のものだけでなく、動画・音声形式のものも対象にしています。 ●書いた記事はゼミで発表し、他学生から意見をもらって修正します。完成したものはネット上で公開することとしています。執筆記事はポートフォリオにして就活でも使えるようにします。 【4年生のゼミは】 ●「卒業論文」か「卒業制作」かを選べるゼミです。その完成に向けて毎回ゼミ発表をします。卒業論文は、メディアに関するテーマの学生が多く、卒業制作は、記事制作や動画制作などさまざまです。 【向いている学生】 時事問題やネットの記事・動画コンテンツに興味がある人 文章(ノンフィクション)やことばに関心がある人 【その他】 ●私自身の専門は、ジャーナリズム、言語学、テレビ、メディア論です。隣接領域の社会学や映像学などにも触れながら、幅広い学びを実践したいと考えています。

ゼミナール紹介

担当者名	岡野雅雄
e-mail アドレス	okano@bunkyo.ac.jp
研究室	3210 室
在室曜日・時限	水曜日(午後;会議時間以外)・木曜日(1、2 時限 昼休み) 念のため、相談希望の方はまずメールにてお問合せください。
個別相談など (日時・方法)	まずメールにてお問合せください。必要に応じて、個別相談をしたいと思います。Zoom も可能です。
選抜方法	もし定員以上となったら、ゼミ内容と志願理由の適合性および成績によって選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論、記号論
2025 年度担当科目	コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論、記号論、基礎演習 A、ゼミナール I・II、卒業研究 I・II
授業概要	◆本ゼミナールの<u>基本的なテーマ</u>は、「<u>言語あるいは記号によるコミュニケーション</u>」です。 最終的<u>な到達目標</u>は、<u>各自の設定したテーマについて必要な資料やデータを集めて分析し、論文を作成する能力を身につけることです</u>。論文を作成することで、原稿用紙換算で 50 ページ以上のしっかりした文章を執筆する能力を身に付けていただきたいと思います。 「<u>卒業研究</u>」で論文を書くことを前提にゼミを進めてゆきますので、ゼミ選択の際には注意してください。 ◆ゼミナールの具体的な<u>進め方</u>は、以下のとおりです。 春学期は、コミュニケーションに関する文献を購読します。そして、その内容にもとづいて発表し、討議します。秋学期は、より卒論を意識して情報収集・購読・討議を行います。 その過程で、以下にあげるような知識・技能を身につけます。 ・レジュメ作成の方法、口頭発表の仕方、新聞・雑誌記事の検索、調査結果のまとめ方、グラフや表の作成、問題発見(リサーチ・クエスションの設定)、原稿執筆のためのアウトライン作成・論文の構成・校正等

ゼミナール紹介

担当者名	奥村真司
e-mail アドレス	okumuras@bunkyo.ac.jp
研究室	3307
在室曜日・時限	火曜日（2限）、水曜日（午後・会議時間を除く）、木曜日（2・3限）は対応可能な時間帯ですが、校務等により不在の場合もあります。 面談や相談をご希望の方は、事前に必ずメールでご連絡ください。
個別相談など （日時・方法）	メールにてお問合せください。
選抜方法	本ゼミを志望される方は、必ず教員との個別面談（対面）を受けてください。 ※面談を受けていない場合は、選抜対象外となりますのでご注意ください。 面談の詳細については、事前にメールにてお問い合わせください。 【選抜について】 希望者が定員を超えた場合は、以下の内容を総合的に考慮して選抜を行います： 1）志望理由書の内容、2）個別面談の内容、3）成績 そのため、本ゼミを志望する学生は、必ず志望理由書を提出してください。 【志望理由書の作成について】 以下の観点を参考にしながら、ご自身の言葉で具体的に書いてください。 ・なぜこのゼミに興味を持ったのか（関心を持ったきっかけや背景） ・このゼミでどのようなことを学びたいか（具体的なテーマや問いなど） ・これまでの学びや経験とのつながり ・将来の目標や進路との関係 ・ゼミ活動への貢献について（自分の強みや活かせる経験など） 分量の目安：800字以上 1000字以内
ゼミナールに 関連する科目	英語 IA, IIA、異文化コミュニケーション
2025 年度担当科目	英語 IA, IIA、基礎演習 A、異文化コミュニケーション、ゼミナール I, II、卒業研究 I, II
授業概要	【ゼミナールのテーマ】 「日本文化の魅力を海外へ発信しようプロジェクト」 グローバル化が進む現代において、日本文化は世界中で注目を集めています。では、海外の人々にとって「日本の魅力」とは何でしょうか？また、どのような文化が特に人気なのでしょう？ 本ゼミでは、日本のポップカルチャー（漫画・アニメ・ゲーム・J-Pop）を中心に、その多様な魅力を深く考察します。そして、それらをどのように海外へ伝えていけるかを、一緒に探求していきます。 【活動内容】 各自が関心を持つ日本文化の分野を選び、詳細に調査 SNS などのメディアを活用し、海外の人々へ発信する実践的な取り組み チームでのディスカッションや発表を通じて、効果的な発信方法を共有 【特別プログラム】 3 月：韓国訪問

	仁川大学の学生との異文化交流を行い、意見交換を通じて新たな視点を獲得します。 現地調査（ソウル市内） 日本文化がどのように受け入れられているのかを直接調査し、肌で感じるフィールドワークを実施します。 このゼミでは、ただ学ぶだけでなく、「世界に向けて発信する実践力」を身につけることを目指します。日本文化が海外でどのように受け止められるのかを一緒に考え、体験しながら学んでいきましょう。
--	--

ゼミナール紹介

担当者名	勝久晴夫
e-mail アドレス	katsuhisa@bunkyo.ac.jp
研究室	3304
在室曜日・時限	火、水、木（前日までにメールにて予約）
個別相談など （日時・方法）	メールにて連絡をしてください。必要に応じて対面あるいは Zoom により、個別相談をしたいと思います。
選抜方法	ゼミ内容と志願理由の適合性によって選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	情報社会と法、現代社会と著作権、著作権ビジネス論、映像コンテンツと著作権
2025 年度担当科目	基礎演習 A、情報社会と法、現代社会と著作権、著作権ビジネス論、映像コンテンツと著作権、日本国憲法、法律学、ゼミナール I・II、卒業研究 I・II
授業概要	・本ゼミナールでは、メディア表現について、著作権法を中心とした法律面から研究します。作品の制作からビジネス展開までの各場面で生じる法律問題に適切に対処できる知識と能力を持ち、戦略的に知的財産法を活用できる人材の育成に取り組みます。 近年では、作品制作の段階で AI 技術を活用することが急速に広がっているが、このような新しい技術を活用する際に生じうる法律上の問題についても研究をします。 ・著作権法等の法律の知識が不十分であることを前提に、ゼミナール I では、音楽や映画、漫画やゲームなど身近な作品を題材にして基礎的なところをレクチャーします。この期間にゼミナール II でゼミ報告をするテーマを選定してもらいます。 ・ゼミナール II は、各自が選定した研究テーマについて、ゼミ報告をしてもらいます。ゼミ報告は、研究テーマに関連する資料を調査した上で、「問題の所在」「法律・判例・学説等の現状」「検討」「私見」「今後の展望」という構成でまとめてもらいます。 ・卒業研究 I 及び II では、「卒業論文」を執筆し、提出してもらいます。この卒業論文の題材は、ゼミナール II でゼミ報告をしたものと同一でもいいですし、それ以外のものを新たに研究テーマとしてもいいです。 ・「論文」の形式にするために必要な手順などは卒業研究 I で解説します。 ・卒業研究 II では、卒業論文執筆のためのサポートを行います。

ゼミナール紹介

担当者名	白土由佳
e-mail アドレス	yuka@bunkyo.ac.jp
研究室	3402
在室曜日・時限	水、木（来訪の際は事前に連絡をください）
個別相談など （日時・方法）	ゼミナールはいつでも見学可能です。水曜 2 限に 3107 教室にいらしてください。まれにオンラインの際があるため、見学の際は事前に連絡をください。 個別相談も随時受け付けています。日程調整のためメールで連絡をください。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合は、面談にて選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	下記科目
2025 年度担当科目	卒業研究、ゼミナール I・II、ソーシャルリスニング、ソーシャルメディア論、デジタルメディア論、コンテンツ発想法、基礎演習 A
授業概要	■ 概要 本ゼミナールでは、ソーシャルリスニングと TEA（複線径路等至性アプローチ）という 2 つのアプローチを学び、私たちの身の回りの様々な事象を社会的に捉え、分析していくことを目指します。 ソーシャルリスニングとは、ソーシャルメディア上などで自然に発生した人々の会話や行動などを分析し、人々の実生活に基づいた意見を活用する手法です。TEA（複線径路等至性アプローチ）とは、インタビュー調査等を時間経過と多様性・複線性という観点から分析する手法です。 どちらも地道な繰り返しが必要になるアプローチです。トライアンドエラーを繰り返しながら、探索的なデータ分析を楽しんでいきましょう。 ■ 到達目標 ・ R や GoogleColaboratory、KHCoder など、データ分析ツールが使用できる。 ・ ソーシャルリスニングの一連の流れを理解し、実践することができる。 ・ インタビュー調査の実施、分析をすることができる。 ■ スケジュールと研究テーマ例 3 年生：春学期は、ソーシャルリスニングと TEA の流れを学びます。秋学期は、毎年 1 月頃に開催される学会の学生教育研究部会（他大学と合同の研究発表会）を目指してグループ研究に取り組みます。4 年生の卒業研究の中間・期末発表にも参加します。 ・ コロナ禍の漫画に対する関わりの変化—鬼滅の刃から読み取る— ・ SNS とファンコミュニティにみる現代アイドルの実態分析 ・ 実況者とそのファンの関わり方 4 年生：卒業研究と、3 年生へのアドバイザーとしてグループ研究をサポートします。 ・ 洒落怖と怪談話における構成の違い ・ ライブ内容と環境に依る受け手の変化と違い ・ 若者とインターネットスラングの使用状況について

ゼミナール紹介

担当者名	竹林 紀雄
e-mail アドレス	noritake@bunkyo.ac.jp
研究室	3411
在室曜日・時限	担当科目が連続しているためは不在の場合が多いので、 <u>担当教員との一対一での相談希望の方は予約の上で、ゼミ説明会後の個別相談会に参加してください。</u>
個別相談など (日時・方法)	○ゼミ説明会Ⅰ（授業内容、ゼミ活動） 10月21日（火）18時15分～18時45分 3114教室 ○個別相談会（対面） 10月21日（火）19時00分～20時00分頃まで 3114教室 ※要予約、先着順で最大10名までとします。 ○ゼミ説明会Ⅱ（卒業後の進路について） 10月28日（火）18時15分～18時45分 3114教室 ○個別相談会（対面） 10月28日（火）19時00分～20時00分頃まで 3114教室 ※要予約、先着順で最大10名までとします。 <u>※ゼミ説明会は予約の必要はありません。興味のある方は足を運んでください。</u> ○ゼミ見学会－10月21日（火）、10月28日（火）はTVスタジオでのゼミ活動は見学できます。※時間など詳細は後日お伝えします。 ○ゼミの映像作品の上映会－10月火曜日の昼休み、3114教室 ※予約必要なし、上映スケジュールの詳細は9月下旬以降に3114教室入口に掲示。 <u>※ゼミ見学会、個別相談会を希望する場合は、必ず担当教員にメールで予約してください。</u> <u>※竹林ゼミにエントリーする場合は、上記の説明会や個別相談会でゼミの教育方針や活動内容を十分に理解した上でエントリーしてください。是非とも、4年、3年の現役の竹林ゼミ生に、学生の視点からのゼミの授業内容や課外活動についての話を聞いてください。</u>
選抜方法	志望者が多すぎる場合は、面接や簡単な試験等により選抜します。
ゼミナールに関連する科目	3 セメスターまで ○演習系科目 <u>「映像表現Ⅰ」、「映像表現Ⅱ」、「スタジオ番組制作」（以上、竹林）</u> 「映像編集演習」（天野先生）、「映像技術演習Ⅰ（ENG）」（森先生）等の映像表現関連の演習系科目 ○講義系科目 「映像表現論」（竹林）、「映画史」、「アート映像論」（以上、門脇先生） <u>※ゼミ選択までに「映像表現Ⅰ」、「映像表現Ⅱ」、「映像編集演習」等の竹林ゼミの履修に必要な専門科目を履修できていない志望者は、個別相談会で、竹林に相談をしてください。</u>
2025 年度担当科目	<u>春学期</u> 「卒業研究Ⅰ」、「ゼミナールⅠ」、「映像表現Ⅰ」、「ドキュメンタリー論」、「映像メディア特論」（大学院）、「情報学特別演習Ⅰ」（大学院）、「研究指導（修士課程）」（大学院）

	秋学期 「卒業研究Ⅱ」、「ゼミナールⅡ」、「映像表現Ⅱ」「スタジオ番組制作」、「映像表現論」、「研究指導（修士課程）」（大学院）
授業概要	竹林ゼミナールでは、テレビや映画を網羅した映像業界と連携し、プロフェッショナル育成を視野に入れた映像表現教育を行います。そして、毎年、卒業時に、ほぼ全員がテレビや映画を中心に映像のプロフェッショナルとして、憧れや夢のスタートラインに立っています。 具体的には、様々なジャンルの独創的な映像作品を鑑賞し、映像表現への理解を深めると共に、課題として映像作品の制作に取り組みます。同時進行で、それぞれが希望する企業や団体の内定獲得のための就活指導も行い、憧れや夢を「現実」のものとしてもらうために日々努力してもらいます。 課題作品の制作に臨むにあたってゼミ生に求めるのは、これを課題として捉えるのではなく、対外的にも「作品」として主張できるものを手掛ける姿勢をもつことです。そして、優れた作品は映画祭や映像フェスティバルに積極的に橋渡しをします。 内定獲得にもつなげるゼミの課外活動の一環として、日本テレビやフジテレビ等で行うテレビ局研修があります。テレビ局内の様々な放送施設を見学し、局内のスタジオやサブルームで生放送番組を体感する研修です。劇映画やTVドラマを志望するゼミ生に向けては、東映大泉撮影所で行う映画撮影所研修があります。撮影所、ゼミ生全員参加で毎年実施する合宿形式の研修。本年度はゼミ生全員で隔年開催の山形国際ドキュメンタリー映画祭に参加する。 この他にも、主に都内での映像作品の鑑賞や映像フェスティバルへの参加、またテレビ業界や映画業界の第一線で活躍する方々との交流も予定している。 さらに、学外での取材・ロケの実習を日常的に行う。このように、ゼミ活動に時間を要するので、部活動やサークル、アルバイトなどで忙しい人には向かないゼミである。のスタジオで行われる映画やドラマの撮影を体感し、俳優や監督などの専門スタッフと交流します。撮影所の編集スタジオで、SFX（特殊効果）やVFX（視覚効果）等を実践的に学びます。このような制作現場でのプロとの交流は3年の秋からスタートするゼミの就活支援においても有効に機能します。 また、毎年、ゼミ生全員参加で合宿形式の研修を行います。本年度は隔年開催の山形国際ドキュメンタリー映画祭に参加し、連日、世界の最先端の映像表現と向き合い、そして海外の映画監督、そして全国各地から参加した映像を学ぶ学生たちと交流をします。 この他にも、主に都内での映像作品の鑑賞や映像フェスティバルへの参加、またテレビ業界や映画業界の第一線で活躍する方々との交流も予定している。 この他にも、主に都内での映像作品の鑑賞や映画祭や映像フェスティバルへの参加、またテレビ業界や映画業界の第一線で活躍する方々との交流も予定しています。さらに、学外での取材・ロケの実習を日常的に行います。 このように、ゼミ活動に時間を要するので、部活動やサークル、アルバイトなどで忙しい人には向かないゼミです。

ゼミナール紹介

担当者名	日吉 昭彦								
e-mail アドレス	hiyoshi@bunkyo.ac.jp								
研究室	5405（日吉研究室）は、左のようなイメージです。テレビが16台あり、地上波とBSデジタル放送を全チャンネル同時に見れます。デスクトップPC3台や複数のノートPCがありますので、自由にみなさんも研究作業や打ち合わせ等をしていただけます。学生さん向けに関心が持てそうな専門図書も揃えています。また、研究室ではありませんが、フォーカス・グループ・インタビュー専用のスタジオを設計しており、ゼミを中心に活用しています。写真右側です。ゼミの学生は、研究室に自由に入出りできます。ゼミウェブサイトは、以下のQRコードからどうぞ。過去のゼミ作品が見れます。なお、私はいませんが、5405 研究室前には、過去のゼミ作品が置いてありますのでどうぞご覧ください。 								
在室曜日・時限	本年度の一年間は、在外研修に出ておりまして、ベトナム・ハノイに滞在しています。研究室には在室していません。								
個別相談など （日時・場所）	湘南キャンパスにいませんので、研究室での相談はできません。また、本年度は授業自体を行っていませんので、3-4年生のゼミ学生は、現在はおりませんので、ゼミの見学はできません。 相談希望者は、ZOOM等のオンラインで相談を受け付けます。相談希望者はメールで連絡をいただければ、時間等調整します。時差が2時間ある（日本の夜7時は、ベトナムの夕方5時）ので、遅い時間でもOKです。複数名での相談もOK。お気軽にお問合せください。								
選抜方法	定員を超えた場合は、エントリーの際に提出するゼミ希望の理由書によって選抜します。 （なお、メディア表現学科以外の方は、エントリー前に、必ず事前相談してください。また、エントリーした場合は、選抜が行われます）								
ゼミナールに関連する科目	社会調査士関連科目など。ただし必須なわけではありません。あと社会学概論も(^^)v 3年次にメディア効果論を取得しておくで役立つでしょう。								
2026 年度担当科目	<table><tr><td>社会学概論</td><td>メディア社会学</td><td>社会調査論</td><td>メディア調査研究法C</td></tr><tr><td>メディア効果論</td><td>プレゼミナールB</td><td>ゼミナール</td><td>卒業研究 大学院</td></tr></table>	社会学概論	メディア社会学	社会調査論	メディア調査研究法C	メディア効果論	プレゼミナールB	ゼミナール	卒業研究 大学院
社会学概論	メディア社会学	社会調査論	メディア調査研究法C						
メディア効果論	プレゼミナールB	ゼミナール	卒業研究 大学院						
授業概要	本ゼミナールは、メディア社会学やマス・コミュニケーション論、メディア文化論などの分野を専門としたいみなさんと、さまざまなメディア研究を行うゼミです。 ゼミでは研究方法として「質的調査研究法」という方法を採用しています。質的方法には、聞き取り調査やインタビュー、フィールドワーク、メディア分析などがあります。また、映像のミクロ分析やメディアの効果測定、マーケティングでのフォーカス・グループ・インタビューなども含まれます。 実際の進め方は、春秋セメを通じてみなさんから調査企画を募集し、調査プロジェクト（PBL）を一つ立ち上げ、「質的調査研究法」をさまざまに用いたメディア研究を行います。過去にはメディアによる地域活性化について、フィールドワークを通じて行った研究などが多く行われています。 授業は基本的に PBL なので、企画立案や事前の下調べ、プレゼンテーション、調査プロジェクトの組織、フィールドでの調査実施、調査結果の整理や分析など、全てをグループ（ゼミ全員）で取り組みます。また、研究成果は、グラフィカルな冊子形式で出版し、その編集作業もゼミ活動の一つです。インタビュー手法については、専門的にかつ体験的に学ぶことができ、実際に広告業界やマーケティング、企業の商品・サービス開発などで使われている技法を身に付けられるでしょう。								

ゼミナール紹介

担当者名	ボブ田中
e-mail アドレス	bobtanak@bunkyo.ac.jp
研究室	3404
在室曜日・時限	基本は月曜日、水曜日、金曜日の午後、在校しています。
個別相談など (日時・方法)	ゼミ見学と個別面談を希望する際は、事前にメールで連絡をください。 ■ゼミ見学 毎週水曜日 2 限 10:50～12:20 です。一度見学することをお勧めします。 ■個別面談 ゼミ希望者は必ず「個別面談」を受けてください。基本は対面で行います。エントリ一前でも構いません。なるべく早く受けることをお勧めします。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合は、面談結果と成績をベースに選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	ボブ田中が主担当する全科目。特に、「コミュニケーションプランニング論」「企画書の書き方とプレゼンテーション」
2025 年度担当科目	広告概論、コミュニケーションプランニング論、コミュニケーションメディア論、マーケティングコミュニケーション、企画書の書き方とプレゼンテーション、プレゼミナール A、ゼミナール I・II、卒業研究 I・II
授業概要	■テーマ：「課題発見と解決を行う実践型コミュニケーション」 ■概要：企業や社会の課題に対して、コミュニケーション視点で解決策を考え実施することを目指します。①情報収集と分析、②課題発見、③アイデア拡散と収束、④論理的なストーリー構築、⑤企画書作成、⑥プレゼンテーション、⑦実施制作進行管理などの一連の流れの中で、社会で生き抜くコミュニケーション力も養っていきます。ゴールは、卒業時に社会でも通用する企画書が書けることです。 ■ゼミナール I・II (3 年次)：企業からのオリエンテーションを受け、複数の「チーム」で課題発見と解決策を考え、企業担当者にプレゼンテーションまで行います。2025 年度は、「蔵王温泉観光協会」からのオリエンテーションを受け、「第 1 回温泉まつり」の企画を考え、プレゼンテーションを行います。 ■卒業研究 I・II (4 年次)：「個人」でプロジェクトを立ち上げ実践します。論文執筆はありませんが、社会でも通用する緻密な企画書作成とその実践が求められます。 ■合宿研修：3 年と 4 年のゼミ生合同で、地方の企業訪問や現場視察を目的とした宿泊を伴う研修を行います。2025 年度は山形の蔵王温泉と天童の畜産農家を訪問し、イベント企画と実施を行いました。 ■就職活動：広告会社（マスメディア・デジタル）や PR 会社、イベント企画制作などへの就職が多いです。随時、個別に就職面談を行います。また、ゼミ内で自らが書いた企画書を武器に就活にのぞんでもらいます。 ■その他：やるべきことが多いので、授業時間外にチーム及び個人の両方において多くの課外活動が求められます。チームのメンバーと協力して活動ができるコミュニケーション力のある人、ゼミで精一杯頑張りたいと思う人、お待ちしております。時間管理に重点を置いていますので、遅刻する人や 1 回くらい休んでもいいと思う人には向いていません。

ゼミナール紹介

担当者名	村井 睦
e-mail アドレス	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ を確認
研究室	3409
在室曜日・時限	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ の office hours
個別説明会 (日時・場所)	個別説明会はおこないません。 ゼミの説明を希望する皆さんへは原則 zoom で個別面談をおこないます。 ＊メールにてアポを取って下さい。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	教室などの詳細は未定のため未定なので、 こちら から氏名を登録してください。
選抜方法	選抜方法は面接や GPA などを総合的評価し選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	なし
2025 年度担当科目	基礎演習 B、インタラクティブメディア概論、情報表現デザイン、ミュージックビデオ制作 A、動画配信演習、Web デザイン、UI/UX デザイン
授業概要	本ゼミナールでは、新しい技術を積極的に取り入れ、従来の表現方法にとらわれない新しい視覚伝達の可能性を探求します。映像、紙、Web といった様々なメディアを横断的に学び、幅広い表現力と情報発信力を習得することを目指します。現代のメディア環境では、多様なプラットフォームに応じた表現が求められるため、この横断的な学びが重要です。 技術や知識の習得だけでなく、グループワークを通じたコミュニケーション能力や協働力の向上にも重点を置いています。チームでの作業を通じて、実社会でのプロジェクト遂行に必要なスキルを実践的に学びます。 最終的な到達目標は技術力だけでなく柔軟な発想力、多様なメディアを活用した表現力、そしてプロジェクトを成功に導くためのチームワークの重要性を学び、即戦力となる知識、経験を修得することを目指しています。

ゼミナール紹介

担当者名	新任 A（デザイン分野）
e-mail アドレス	
研究室	
在室曜日・時限	
個別相談など （日時・方法）	
選抜方法	GPA(100 点) : GPA の値を 100 点満点に換算して採点する
ゼミナールに 関連する科目	「デザイン論」「広告表現 A」「広告表現 B」等
備考	・ 2026 年度 4 月着任予定です。 ・ タイポグラフィを中心に幅広くデザインについて技術面、理論面の両方に詳しく、グラフィックだけでなく動画にも研究領域を広げている先生です。学生への丁寧な指導をしてくださいます。 ・ 個別相談は、学科長の清水、または教務委員の勝久が代わりに実施します。希望する学生は必ず個別相談を受けてください。